

全酪連会報 ⑨

2023 SEP No.696

酪農とのかけはし／内海康博先生

第74年度(令和5年度)
通常総会開催される(詳細報告)

酪農部だより／FSSC22000について

日本酪農見て歩紀／西ノ村ファーム
(鹿児島県始良郡湧水町)

酪農トピックス／俺、私、将来は酪農家になる!!
鹿児島県酪協が「酪農後継者キッズ交流会」を開催しました! (全酪アカデミー) ほか



LINE公式
アカウント
ができました!
登録をお願いします!



酪農青年女性会議

@642bpcwk



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第45回

埼玉県立熊谷農業高等学校

ウチウミヤスヒロ
内海康博 先生

命を育み、 知を磨く学舎

埼玉県立熊谷農業高等学校
(埼玉県熊谷市大原3-3-1)

内海康博 先生



▲ 仔牛に触れ合う内海先生
飼育している牛全てが人懐っこく、
牛に優しい管理形態であることが伺えます

今回お話を伺った埼玉県立熊谷農業高等学校（以下、「熊農」と記します）は明治35年に開校し、今年で創立121年を迎える歴史ある高校です。

熊谷市内の住宅街にあるものの約13,000㎡の敷地を持ち、現在は669名の生徒が4つの学科

魅力あふれる4つの学科

● **生物生産技術科**：食料生産に関して学ぶ植物生産コースと、緑地空間のデザイン、創出に関して学ぶガーデニングコースの2つのコースに分かれ、緑のクリエイターを育てる学科です。

● **生物生産工学科**：草花の栽培、アレンジメントに関して学ぶフラワーコースと、動物の飼養管理、畜産物の加工に関して学ぶ動物科学コースの2つのコースに分かれ、自然と命のスペシャリストを育てる学科です。

● **食品科学科**：食品の製造、分析、



▲ 搾乳作業中の生徒たち
休校期間中も1日2回飼育動物の管理を行います

流通に関して幅広く学び、人々の食生活に安心安全を届ける食のプロデューサーを育てる学科です。

● **生活技術科**：ファッション造形、フードデザインについて学ぶ食と生活コースと、保育、福祉について学ぶ子供と福祉コースの2つのコースに分かれ、日常生活のスペシャリストを育てる学科です。

命を育み知を磨く学舎

そんな魅力のある熊農は乳用牛だけでなく、肥育牛、豚、鶏などさまざまな動物も生徒を中心に飼育しています。

牛舎は今年の4月に新設され、フリーストール式で搾乳牛を8頭飼育でき、パラーで搾乳します。パドックも併設されていて昼間は自由に出入りできます。哺育牛舎も屋内にあり出産から搾乳まで実践的な実習を行うことができます。また、牛舎を新設するにあたり内海先生が特に力を入れた点が2点あるそうです。

1点目は動線の確保です。熊農の新生舎は金属の柵で区切られています。人が出入りしやすいよう1部



▲ 121年の歴史を持つ校舎
取材時は夏休み期間でしたが普段は学生の声でにぎわっています

7:20 ▶	管理実習
8:20 ▶	
8:35 ▶	ショートホームルーム
8:45 ▶	
8:50 ▶	
	授 業
15:15 ▶	
15:40 ▶	
	管理実習
17:00 ▶	帰 宅

2点目は暑熱対策です。熊谷市は全国ニュースでも取り上げられる程に夏は猛暑となる地域のため、対策は必須でした。熊農では合計19機の扇風機とミストを設置し、断熱材を入れた天井を10mの高さに設置してあります。扇風機、ミストは個別に動かすことができるため電力の節約も可能です。実際の効果として、牛舎内は8月の昼間でも快適なほど涼しかったです。

生物生産工学科では、1年生は6割が一般科目の授業で専門科目では草花の栽培管理などに関するフ



▲ 風通しの良い牛舎
通路にも移動型の扇風機があり
熊谷の厳しい暑さも乗り切れます

2年生に上る際に2つのコースのどちらを専攻するか選択し、より専門的に学びます。2年生でも6割が一般科目ですが、動物科学コースでは動物の飼育管理に関する学習はもちろんのこと、畜産物の加工、流通についても学び、6次産業化について全体を通して学ぶことができます。

3年生になると普通科目は5割になり農畜産物について専門知識や最新技術を学んでいきます。

アニマルウェルフェアの観点や、周辺環境、時代の変化、予算編成などから従来通り実習を行うことが難しいこともあるそうですが、酪農業の大変な部分も含めて生徒に伝えて

酪農業界に向けて

生物生産工学科へ入学してゐる生徒の多くが動物に興味を持つて入学してくるそうです。「畜産担当教員は、一人でも多くの生徒が将来の畜産業の担い手となるよう、日々教育活動に取り組んでいます。」とのこと。

「酪農の魅力は、愛らしい牛と共に時間を過ごし、多くの人たちにおいしい牛乳を飲んでもらう喜びを感じることに尽きるのではないかと思います。これから酪農の魅力を熱意を持って生徒へ伝え、酪農業界とのかけはしになっていきたいです。」とおっしゃっていました。

本校では、これからの酪農のあり方として6次産業化に着目し、生産・加工・販売という一連の過程を実践し、商品開発等に取り組んでいます。次世代の魅力ある酪農を多くの生徒に伝え、未来を担う後継者を一人でも多く送り出していきたいと考えています。



第74年度
(令和5年度)

通常総会開催される

詳細
報告

本会は、7月27日(木)明治記念館(東京都港区元赤坂)において、第74年度通常総会を開催し、令和4年度の事業実績、剰余金処分案、令和5年度の事業計画案の承認を得るとともに、役員候補の補選を諮った。

午後1時、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った隈部洋代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参集に対し謝意を述べた後、国内の酪農情勢について、「新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻、日米金利差による為替の円安などの要因が重なり、一昨 year 以降、非常に厳しい状況となっている。脱脂粉乳の在庫は、生乳生産抑制や酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業により、4月の段階で前年同月比35%ほど減少をしている。また、国の飼料価格高騰緊急対策等、手厚い対策が実施されることに加え、来月より飲用向け乳価が再度値上げされることから、少しづつ光は見えてきているが、乳価値上げによる消費動向は非常に気になる。引き続き、関係団体と連携を今以上に強化しつつ、理



▲ 隈部洋代表理事会長

解醸成活動や消費拡大運動に努める。」と述べた。

次に、令和4年度の本会の事業実績について、税引前当期損失が約6億1千百万円となり、第1四半期及び第4四半期で総額約3億5千万

円の配合飼料特別対策を実施した一方で、剰余金処分案として会員の皆様に對し、1%の出資配当は実施し、事業分量配当は未実施となることをお詫びした。

そして、「全酪連は酪農の現場が苦境にある中において、令和3年度に策定した『全酪連将来ビジョン』における基本姿勢として『持続的な酪農生産基盤の構築』を掲げており、その目指す未来は、酪農家の食卓を笑顔で満たすこととしている。この将来ビジョンに基づく具体策として、令和5年度事業計画を設定しており、この計画を着実に実行に移し、引き続き、現場の酪農家に寄り添う姿勢を明確にしつつ、我が国の酪農が直面する様々な課題に対応していく。」とし、最後に「会員・酪農家の皆様には、日頃から多大なご理解とご支援をいただいていることに、改めて深く感謝するとともに、引き続き、ご協力を賜りますようお願いしたい。」として開会の挨拶を締めくくった。

本総会には来賓として、農林水産省畜産局・関村静雄審議官、農林中央金庫・尾崎太郎常務執行役員をはじめとして、一般社団法人全国酪農

協会等関係団体からご臨席をいただいた。

農林水産省畜産局の関村審議官は来賓挨拶の冒頭でご列席の皆様への日頃の感謝に加え、6月に東北から九州までの広い範囲で発生した大雨被害について触れ、被害に遭われた方々にお見舞いの言葉を述べられた後、酪農を取り巻く環境について、「生乳の需給緩和に加え、飼料価格の高騰により厳しい状況にあると承知している。飼料価格の高騰に対して、累次にわたる準備費補正予算等を使った支援を行ってきたが、3月に取りまとめた畜産酪農緊急対策パッケージにおいて、飼料高騰対策に加え、需給改善のための消費拡大緊急対策を措置し、酪農経営の安定を図る対策を実施している。生乳需給の緩和に対し、生産者の皆様方も需給ギャップ解消に向け、生産・需給の両面で大変なご苦労の中、取組みを実施していると承知している。貴会においては、乳製品加工や消費者への乳製品販売等、需給調整や現下の需給ギャップ解消に向け、尽力をいただいている。国として、早期に需給状況を改善し、酪農経営の改善につなげられるよう



▲ 来賓 農林水産省畜産局 関村審議官

に、取組みを後押ししたい。」と述べられた。

さらに、制定から約20年が経過した食料農業農村基本法の検証を進めていることについて、「食料安全保障の観点からも輸入飼料の過度な依存から脱却し、国内の飼料基盤に立脚した足腰の強い生産に転換することが重要であると考えている。国産飼料の生産量の拡大に向けた取組みを今まで以上に推進し、様々な方と意見交換を重ねながら今後の施策の在り方について考えていきたい」と述べて挨拶

を締めくくられた。

次に、農林中央金庫の尾崎常務執行役員は、来賓挨拶にて、総会開催へのお祝いの言葉とともに、農林中央金庫の業務への理解・協力にお礼の言葉を述べられた後、「限部長の話にあった通り、日本経済、ウィズコロナへの移行に伴い、民間需要を中心に緩やかな持ち直しがみられる。一方、世界的な物価の上昇、金利の上昇、円安方向への為替の変動もあり、今後の経済見通しは不透明な状況が続くと思われる中、ロシア・ウクライナ情勢の悪化の影響を受け資材・エネルギーコストは上昇し、飼料価格は2021年度から高騰を続けている。酪農現場では酪農が加速し、酪農経営を取り巻く環境はより一層厳しさを増している。貴連合会は非常に厳しい業務運営を迫られている中で、飼料高騰対策として、特別対策費を会員の皆様に還元されている。役職員のご尽力、並びに限部長のリーダーシップの賜物であり深く敬意を表したい。」と述べられた。

また、昨今の全国各地における災害について「生産現場への影響も大

変懸念される。直近では、豪雨の影響でバルククーラーが浸水し、集乳ができず生乳廃棄を強いられた酪農家の皆様もいらつしやつたと聞いている。一日も早い復旧・復興を祈念申し上げる。」とお見舞いの言葉を述べられた。

さらに、「外部情勢や天災など非常に厳しい環境下ではあるが、農林中央金庫としては系統金融機関として酪農協系統の振興に向けた金融対応はもちろんのこと酪農関係団体の皆様の経営改善のご支援、酪農生産基盤維持・発展に向けた貴

連合会の取組みもご支援させていただく所存である。」と述べて、挨拶を締めくくられた。

その後、温泉川寛明氏(広島県酪農業協同組合 代表理事組合長)を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案通り承認された。

最後に、温泉川議長は議事が無事終了したことに対し謝意を述べた後、「広島県の酪農家の経営も非常に厳しく、地元の市町、県国から手厚い支援をいただいているが、廃業が止まることなく、4月から今まで4戸の酪農家の廃業があった。非常に残念である。生産者側での生産抑制も非常に大事だが、牛乳の出口である消費を拡大することが最も重要だと認識しており、広島県酪

は、牛乳でスマイルプロジェクトへ参加している。消費拡大のために「牛乳そんぐ」を作り、7月にはMAZDA Zoom-Zoom スタジアムでのプロ野球公式戦にて3万1千人以上の観客の前で披露した。また牛乳の価値をしっかりと訴えながらパンフレットも配り、さらにスタジアム内で県産牛乳を使ったアイスクリームを販売し、約500個

が完売した。皆さんの地元でも様々なイベントがあると思う。そのような場所へ積極的に出ていき、酪農家が一体となった消費の拡大を目指してほしい。」と述べられ、議事が終了した。

議事終了後、小前副会長理事が閉会の挨拶に立ち、「8月からの乳価の値上げに伴って、牛乳の消費が落ちるのではないかと懸念されている中であり、会員の皆様には色々な取組みを行っていただきたく思う。本会も酪農会館の前で酪農マルシェを行っており、さら

なる消費拡大に向けて取組んでいきたいと思う。また、本会も非常に厳しい経営状況にある。大きな要因は購買事業の取扱高が減少していることであり、会員の皆様には系統利用の推進をお願いしたい。厳しい酪農経営状況を乗り越えていただくため酪農専門農協の全国連としての役割をしっかりと果たし、事業に取組んでまいりたいと思う。引き続き皆様には本会の事業運営にご理解とご協力、ご利用をお願いしたい。」と締めくくり、第74年度通常総会は終了した。



▲議長 温泉川寛明氏(広島県酪農業協同組合 代表理事組合長)



▲小前副会長理事

日本酪農 見て歩 紀

No. 363

西ノ村ファーム
あいら
鹿児島県始良郡湧水町

酪農 0 からのスタート



▲ 右から高志さん、香子さん（長女）、香太郎くん（長男）、桃香ちゃん（次女）、幸美さん

地域の紹介

西ノ村ファームがある鹿児島県始良郡湧水町は平成15年に吉松町・栗野町が合併、鹿児島県の中央北端に位置し宮崎県にも隣接する火山灰土壌（シラス）に覆われた盆地状の地勢にあります。霧島山系に属する栗野岳（標高1,102m）を東に、南西に国見岳（標高648m）を擁し、町中央部を九州第二の規模を誇る川内川が流れ流域は肥沃な水田地帯となっています。年中途絶えることなく冷水が湧き出でる丸池は日本名水百選に指定され町名の由来ともなっています。

春には国の天然記念物であるノハナショウブが咲き、夏にはホタルも見ることができ、豊かで美しい自然あふれる地域です。また、栗野岳温泉は明治6年に官職を辞して帰郷した西郷隆盛が1か月ほど滞在

牧場の概要

し、静養と狩猟を行い、ここは仙郷にござそうろう！と絶賛、激動の明治維新に思いを馳せる名湯です。



▲ 牛舎

今回、取材をお願いした西ノ村ファームは、鹿児島県酪農農業協同組合（有村洋平代表理事組合長）に所属しており、鹿児島県酪農農業協同組合の出荷戸数は123戸（令和5年3



月末現在、令和4年度の生乳受託乳量は64,518tとなっています。

現在の飼養頭数は、経産牛29頭と育成牛9頭の38頭、日乳量は450kg程です。

お話を伺った西ノ村高志さん（経営主）、幸美さん（奥様）のご夫婦は、平成23年に千葉から鹿児島島に移住、酪農ヘルパー利用組合「デーリイサポートかごしま」に就職、平成26年に独立し0から西ノ村ファームを立ち上げました。酪農に関わる作業全般をお二人でこなし、家族も増えて一男二女のお子様と5人暮らしをされています。

今年4月には目標の一つであった6次産業化の第一歩として直売所を開設し、モッツアレラチーズを高志さんが、自家製のソフトクリームを幸美さんが、ご担当しています。

新規就農

①経緯

元々、高志さんは千葉県のご出身で21歳の時に接骨院で働き始め、22歳の時に幸美さんと結婚しました。農業に携わる患者さんも多く、接するうちに興味を持ち農業を始めた。この気持ちが芽生えたそうです。

家族と悩み、ぶつかりあいながらも何度も話し合い、動物が好き、牛が好きの気持ちから酪農を目指しました。

平成21年9月、千葉県東金市の伊藤牧場（良巳さん）の門を叩き厳しい世界であると諭されたものの、諦めきれず再度お願いし受け入れて頂き酪農の世界へ。

伊藤牧場の皆さんと過ごす中、家族一丸となつて同じ目標に向かい日々努力し苦労の中でも幸せを感じている姿が目に見え、自分の牧場を持ちたいと強く意識しはじめたそうです。

それから、新規就農への糸口を探し、仕事の合間を見つけては伊藤牧場の皆さんや関係機関に相談を重ね

▼ 地域の皆と牛舎建設



▲ 支援いただいた皆さんと牛舎落成祝賀会

また、ヘルパーを通じて培った湧水町を中心とする酪農家とのつながりが就農への大きな後押しとなりました。廃業する酪農家から「うちの畑と機械を使っているよ」と連絡を受け、酪農家への夢が少しずつ前進はじめたそうです。牛舎

ね、義理の父の出身地である鹿児島が候補にあがりました。まずは鹿児島島の酪農を体験してみたいと思い鹿児島県酪協に連絡、ヘルパーの求人を出していませんでしたが「是非とも鹿児島へ」と快く応えてもらい平成23年4月に鹿児島島へ移住することを決意しました。

②周囲の支え

高志さんはヘルパーとして働き経験を積み、空牛舎の情報を収集・検討し新規就農の準備を進めました。その間、幸美さんも高志さんの思いに賛同しヘルパーとして働き三人三脚で就農に向けて取組んだことが、「中途半端では絶対にダメだ！」と自分を奮い立たせる大きな力となりました。

の建設においても土地の造成、木材の皮むき、牛舎設計など多くの工程で地域の酪農家や組合の支援をもらい平成26年11月に自分たちの手で牛舎が完成できました。

牛もたまたま廃業する酪農家から全頭購入させてもらい、初日から搾乳し生乳の出荷が出来たことも順調に船出できた大きな要因です。

夢の実現

就農の夢を実現したお二人には「こうありたい」大きな2つの未来予想図がありました。



▲ 放牧

①放牧…一番は牛が元気なこと！放牧

を中心に生草をあえストレスを出るだけ除いた環境で美味しい生乳を搾りたい。

現在は、よほどの事が無い限りは毎日放牧させ、自給飼料は自作5町



▲ 長生きがモットーです！

今年から、地域のコントラクターにも参加して7町歩のトウモロコシ作付けを開始しました。

乳量こそ少ないものの、自分のスタイルに合った飼養管理で牛を飼うことが出来ており、ストレスをかけない環境に気を配っている影響か、長命連産で長く付き合える牛が多いそう、これまで13産を筆頭に経営に寄与してくれています。



▲ 生草の給与

歩（イタリアンやヒエ）、耕畜連携8町歩（イタリアン・WSC）にも取り組んでいます。

営業日は SNS の Instagram でのみ発信しています。



▲ 自家製ソフトクリーム

● 西ノ村ファーム Instagram URL

➡ <https://instagram.com/nishinomurafarm?igshid=MzRIODBiNWFIZA==>



▲ 小さい看板を見逃さないように



②加工・新鮮でおいしい生乳を自分で加工して食べてもらいたい。

今年4月、自宅に併設した工房で自家製モッツアレラチーズ・ソフトクリームの製造・直売を開始しました。チーズのこだわりは産後あまり日の経っていない牛の搾りたて生乳

また、近年の化学肥料高騰もありますが、元々、有機肥料でできないかとの思いから、不足する堆肥は近隣にある引退馬牧場の馬糞や町内の除草した草を貰い受けて発酵させ畑に還元する取組みも実施し循環型農業で生産コストの低減にも努めている所です。

更なる一歩

高志さんは放牧酪農のため草地の確保に向け、昨年、裏山を取得し少しずつ伐採造成、電牧設置も開始しました。

チーズは種類を増やすため、固めのモッツアレラチーズを発酵熟成させた試作品作りにも挑戦したいと考えています。

幸美さんは子育てが一段落するまでに乳製品の品質を高め、品目も増やし、将来的には直売所の営業日を増やして行きたいと思いを馳せ、安定的に製造、販売するため将来の夢をアップデートしています。

新規就農を志す方へ

「只でさえ新規参入の難しい酪農で、最近は酪農経営環境も悪く新規

就農には二の足を踏む状況ですが、酪農家になるんだ」という強い気持ちがあれば、自分が置かれている状況を把握し、しっかり情報を集め、少しずつでも着実に前進することで道は開けると思っています。」

最後に

0から酪農をめざした自分たちに酪農の道を与えてもらった伊藤牧場の皆さん、鹿児島へ体一つで移住した自分たちを支援して頂いた地域の酪農家や関係団体の皆さん、飼養技術や放牧、チーズ製造に関して惜しみなく教えて頂いた皆さん、土地を提供してくれた方、機械や資材を譲ってくれた方、関係機関とのつながりを作ってくれた方、この湧水町だから酪農が出来たことに心から感謝していると述べられている二人が印象的でした。

ご多忙の中、新規就農・6次産業化の取組を中心に取材をお願いしましたが、紙面に乗り切らないほど多面に渡りお話を伺いでき感謝申し上げます。

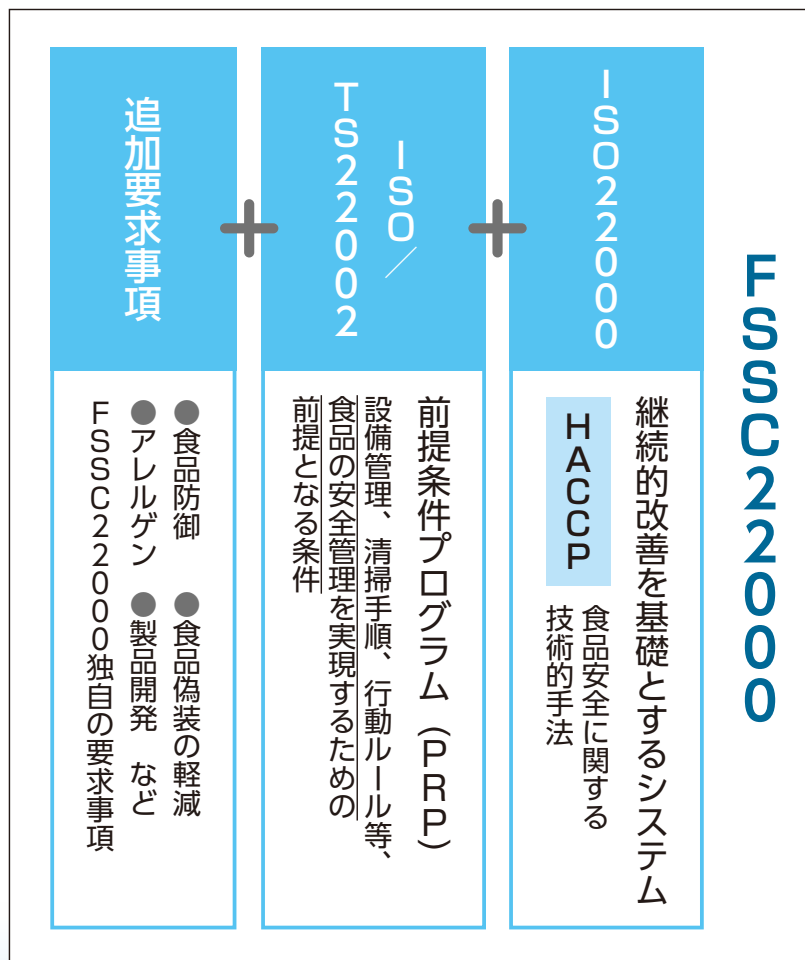
今後、益々、西ノ村ファームがご発展するとともに鹿児島県の酪農が隆盛する事を願っております。（M・A）

FSSC22000 について

東日本にて生乳需給調整の役割を担っている全酪連北福岡工場において、2022年9月に食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」の認証を取得しました。乳製品の製造において、以前はHACCPに基づく工程管理の手法を用いていましたが、HACCP義務化にて品質に関わる外部認証が無くなることも契機となり、お客様の要求レベルや社会環境の変化に対応できるよう新たに組み込みました。今回は、このシステムの仕組みや内容をご紹介します。



北福岡工場：乳製品（脱脂粉乳、バター、脱脂濃縮乳、生クリーム）の製造



FSSC22000とは、国際的に定められた安全な食品を消費者に届けるための仕組みです。同様に食品安全を管理する規格としてHACCPやISO22000があり、HACCPをもとにISO22000が作られ、ISO22000をもとにFSSC22000が構築されています。なお、HACCPやISO22000は国や機関によって内容の解釈が異なりますが、FSSC22000はISO22000の内容をもとに衛生管理の手法など具体的な内容が追加され、より基準が明確化されています。つまり、ISO22000よりもさらに安全で確実な食品安全マネジメントシステムを構築・運用するための、国際的な規格がFSSC22000となります。

FSSC22000とは？

食品安全マネジメントシステムのPDCA

経営者が定期的に組織の見直しを行い、組織全体と現場の両面でPDCAサイクルを回すことで「組織管理（マネジメント）」と「食品安全」を継続的に改善・強化できることが特徴です。

PLAN

食品安全方針、目標策定：食品安全に関する方針と目標を決めます。

組織の役割、責任及び権限：経営者や食品安全のリーダー、各自の役割、責任、権限を明確にします。

責任、権限を明確にします。

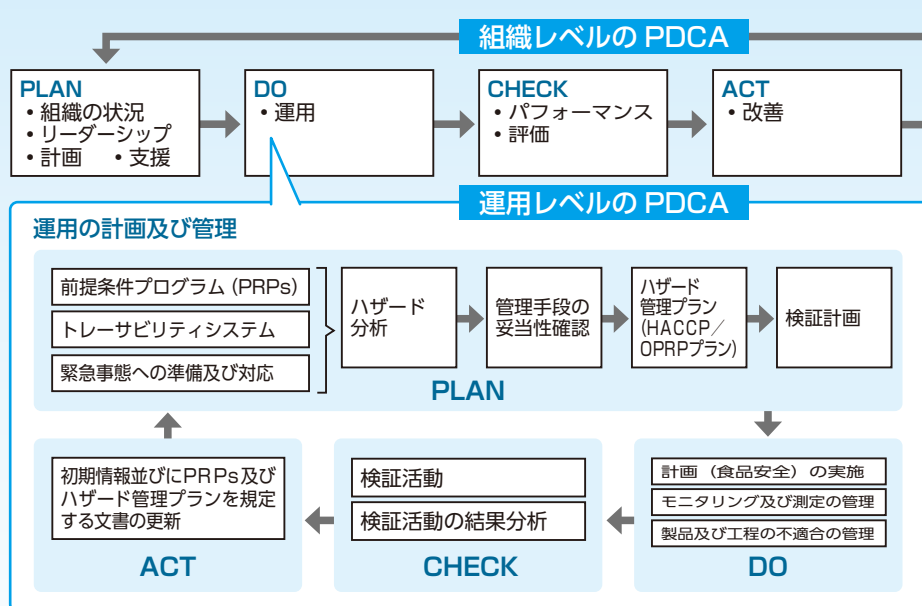
CHECK

パフォーマンス評価：食品安全目標の達成状況や製造工程の管理の妥当性など、分析及び評価します。

内部監査：システムの検証機能として、内部監査を定期的に実施します。マネジメントレビュー：経営者が組織の総括と見直しを行います。

ACTION

改善：パフォーマンス評価やマネジメントレビューの結果を受け、更なる組織改善に繋がります。



食品安全方針

- 全酪連酪農部は、安全で高い品質を備えた乳製品を確実に提供し、消費生活者をはじめ、さらなる加工にご使用いただく方々の満足を得ていきます。
- 酪農部は、食品安全方針を具現化するため、食品安全目標を設定し、その達成に向けた取組みを推進していきます。
- 酪農部は、法令・規制要求事項及び顧客の皆様から負託を受けた要求事項などの、食品安全上の要求事項を確実に遵守していきます。
- フードチェーンの食品安全に貢献し、またその食品安全を確実なものにするため、部内でのコミュニケーション及び外部の利害関係者の方々とのコミュニケーションを深めていきます。
- ISO22000：2018に基づいて構築した食品安全マネジメントシステムについては、定期的に見直しを実施して、このマネジメントシステムを継続的に改善していきます。
- 酪農部は、ともに働く全ての方々に、食品安全の重要性についての認識を深めていただき、食品安全管理に必要な知識の向上とその能力の確保に取り組みます。

計画：目標を達成するための計画を策定します。

支援：食品安全マネジメントシステムの確立、実施、維持、更新及び継続的改善に必要な資源（人、設備、作業環境、マニュアルなど）を明確にし、提供します。

DO

運用：食品安全の前提となる衛生管理のルールや製造工程の中で特に注意が必要な項目の管理方法などを定め、管理、検証、改善を実施。

この運用の中でもPDCAサイクルで回します。

このPDCAサイクルに基づき、まず北福岡工場を含む酪農部門として「食品安全方針」を定め、食品安全マネジメントシステムとして、「安全安心な製品の製造のために、酪農部 食品安全約束ごと」を文書化・確立し、北福岡工場長をリーダーとした工場・酪農部メンバーによる「食品安全チーム」を組織し運用を開始しました。認証取得から1年が経過いたしますが、運用を重ねるたびにシステムの改善を繰り返している状況です。さらにこのシステムの検証機能として「内部監査」を半年に1回行っていますが、内部監査員の力量アップや養成にも取り組んでいます。また、FSSC 22000自体も追加要求事項の更新が発表され、2024年8月からの運用を目指し、システムの再構築に取り組みます。

生乳から安全な乳製品を製造し皆様に届けるべく、今後も継続的改善に繋がっていきますので、よろしくお願いいたします。

全 酪
アカデミー発

俺、私、将来は酪農家になる!! 鹿児島県酪協が「酪農後継者キッズ交流会」を開催しました!

令和5年8月3日(木)～4日(金)に、鹿児島県酪協の主催で『酪農後継者キッズ交流会』が開催されました。県内の種子島・大隅半島・薩摩半島から7名の小中学生が参加したこの交流会は、県内酪農家のお子さんを対象に開催され、野外活動（アスレチック体験、川遊び、パークゴルフ）などを通じて将来に亘る仲間作りを図ってもらうとともに、酪農家視察を行い自分の家とは違う酪農にも触れ、将来の夢を膨らませてもらうことを目的としています。

開会式では鹿児島県酪の山下部長より「皆さんの

お父さん、お母さんのお仕事は、学校給食、料理、ヨーグルト、お菓子など“人の食”に関わる素晴らしいお仕事をしています。」「毎日毎日早起きをして搾乳するお父さん、お母さんに感謝しながら、今日は交流会を思いっきり楽しんで沢山のお友達を作ってください。」と、ご挨拶されました。

全酪アカデミーの事務局もこの交流会に参加し、全酪アカデミーが事業として行う“新規就農の取り組み”と併せて“酪農家のジュニア世代へのアプローチ”も重要であると感じさせる交流会でした。(S.K)



▲ 牧場にて吉崎悟士さんから説明を受ける



▲ 開会式(山下部長挨拶)



▲ 初めてみる自動給餌機



▲ 宿泊したログハウスの前で

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和5年度 ヒューマンエラー対策研修」の開催

酪農部が事務受託している全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合代表理事組合長）において、令和5年8月2日(水)(WEB研修)に「ヒューマンエラー対策研修」を開催いたしました。

本研修会は昨年度より、会員企業からの要望を受けて開催をしております。今年度は、ステップアップ研修という形で、昨年度実施した基礎コースをベースに企業・チームでヒューマンエラーを防止していくための対策等について、ANA ビジネスソリューション(株)より講師を招聘しオンラインにて開催いたしました。

ヒューマンエラーを防ぐ為に、「顧客（エンドユーザー）の商品・サービスへの期待を裏切らない」「つらい思いをする仲間を増やさない」を大前提に意識をし、職員の「行動の質」を変えていくことの必要性を

感じる研修でした。

またヒューマンエラーの発生原因を分析すると、「やるべきことをやらなかった」「これくらい大丈夫だと思った」「もう一度確認しなかった」等が多くあり、職員一人一人の責任感ある行動を促すことで、様々なヒューマンエラーを未然防止可能であると解説がありました。各工程、工場内での事故になりそうなヒヤとした、はっとした出来事「ヒヤリハット」の事例を各社グループワークで共有し、それがなぜ未然に防げたのかについて分析を行いました。「ヒューマンエラーを防ぐだけでなく、やらされ感からの脱却について等、大変興味深いものだった」、「工場内の具体的な話の中で、実際経験した事が相談出来たので良かった」等の感想が、受講生からも聞かれました。（Y.A）

なお、本研修会は（一社）Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております。

「行動」の大切さ

ヒューマンエラーによる
事故やトラブルの要因を分析すると・・・

- やるべきことをやらなかった
- これくらい大丈夫だと思った
- もう一度確認しなかった



酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和5年度 女性職員向け研修」の開催

全国農協乳業協会において、令和5年8月17日(木) (WEB研修)に「女性職員向け研修」を今年度初めて開催いたしました。昨今、ダイバーシティ・女性活躍の時代といわれる中で、会員企業の中で近くにロールモデルとなる女性管理職等がおらず、若手中堅の女性職員の方々の働き方やキャリアアップについて課題を感じているとの声を受けて開催いたしました。

(株)インソースの講師を招聘し、「女性のためのスマートワーク研修」と題して全国より、営業職、事務職様々な年代層の受講生19名の参加を得て開催いたしました。

講義の中では、「キャリア」には昇進を意味する上方向、ひとつの業務を追求する下方向(スペシャリスト)、それに合わせて幅を広げる横方向(ゼネラリスト)があるという解説から、参加者自身が何に重きを置きたいのか、また、働いているときにモチベーションがあがる要素は何か、「仲間」や「報酬」等60項目の中からTOP3、さらにその中で1番といった順に掘り起こす時間がありました。

その後、それぞれの意見グループで共有する時間があり、一人一人が自分の働き方を見つめなおすいい時間となりました。

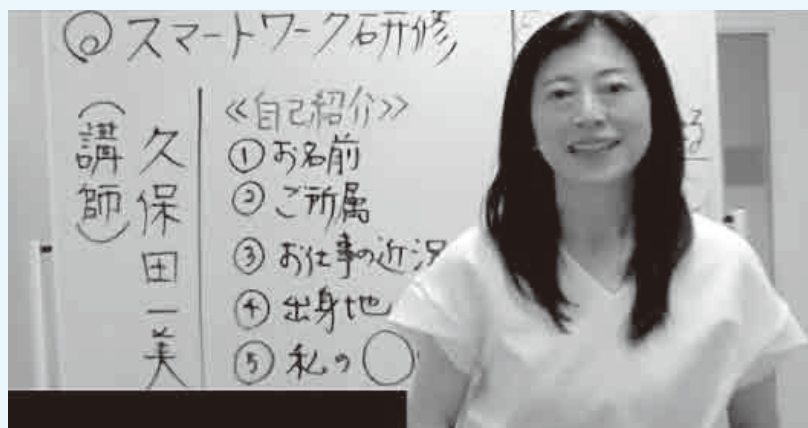
また、講義の中にはキャリアアップ転職、育児、介護等を経験した講師から、実体験を交えた働き方につ

いて語られました。受講生の中にはまだ若く、自身のライフステージが変わるイメージがわからない中でも、個人ワークで5年後、10年後、20年後と自身の年齢、周囲家族の年齢等を書き出し、その時々ライフイベントを書き出すと、思ったより時間がないという声も聞かれました。この研修会を通じて、「会社から自分に何が求められているか、どのようなことを求められる社会人になっていきたいか考えていきたい」「仕事を続けるうえで、昇進していくイメージにポジティブな印象を受けていなかったが、誰にでも昇進の話があるわけではない、選ばれたのだという講義内容にはっとした」等仕事についての前向きな意見もありました。

今回初めて「女性」に限定した研修会を開催し、会社や世代の垣根を超えて自身の仕事観や、働き方について語り合う中で、最初はぎこちなかった会話も徐々に、受講者同士がポジティブに応援できる様なグループになっていきました。WEB研修によって、多少の不都合はありますが、子育て世代等普段出張を交えた研修に参加できない方々が参加できるメリットを生かしながら、次年度以降も開催したいと考えます。

全国農協乳業協会は会員事業者の負託にこたえるべく、様々な情報の発信や研修会の開催など活動が続けていきたいと考えております。(Y.A)

なお、本研修会は(一社)Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております。



札幌
支所発初妊牛価格は低調維持、厳しい情勢に導入進まず
「令和5年度 北海道・都府県畜産主任者会議」

8月4日(金)本会札幌支所主催、令和5年度北海道・都府県畜産主任者会議を開催し、道内と都府県の乳牛購買の担当者他75名にご出席いただきました。

畜産事業説明、基調講演(「物流・運送業界を取り巻く2024年問題について」社会保険労務士法人NKオフィス代表 名古屋清隆氏)に続いて、搾乳用素牛導入事業に関する府県の導入動向並びに道内の資源状況について各担当者より説明がありました。都府県からは生乳生産量・出荷戸数ともに令和3～4年度、さらに今年度にかけて大きく減少しており、離農が進んでいるとの報告のうえ、初妊牛価格は下がっているものの導入する余裕がない、現在は生産基盤の維持が優先、といった厳しい現状が説明されました。一方で、離農やホルスタイン交配割合の低下により予想される搾乳用素牛の不足に備えて、引き続き北海道の協力のもと頭数維持を図らなければならないといった声も聞

かれました。これに対し北海道会員からは、販売牛の実績・内訳等が示され、F1腹や和牛受精卵腹が増加傾向と言った情報が提供されました。また地域によるものの今年は粗飼料の状態も良く、販売牛の頭数・種類ともにそろっているため要望に応えることが可能、との説明がありました。

閉会の挨拶に立った本会理事である本別町農業協同組合 佐野政利組合長は「数字上では承知していたが、思っていた以上に現状は厳しいと感じた。しかし何とか脱しなければ日本酪農が衰退する。全酪連は酪農家に寄り添うと限部会長がお話されているとおり、こういう時こそ全酪連職員、そして会員農協職員も踏ん張ってほしい。また全酪連はそういう姿勢でありますので、力を合わせて頑張っていきましょう」と呼びかけ、会を締めくくりました。(T.H)



▲ NKオフィス代表 名古屋氏による講演



▲ 意見交換会の様子



▲ 閉会の挨拶に立つ佐野政利代表理事組合長

札幌
支所発「良質な粗飼料生産に向けた草地簡易更新実演・展示会」開催
北オホーツク農業協同組合 U2デイリーコンシェル(株)

7月28日(金)興部町宇津地区において、北オホーツク農業協同組合管内のTMRセンター U2 デイリーコンシェル株式会社(以下、U2DC(株))が「草地簡易更新作業の実演・展示会」を開催しました。U2DC(株)は本会札幌支所が飼養管理・自給飼料圃場に協力しているTMRセンターで、当実演・展示会は、草地更新技術において土壌に適した機械を組み合わせることで低コストでの更新が可能となる「簡易更新」に着目し、自給飼料増産に向けた取り組みの一助となることを目的として、オホーツク及び宗谷管内の生産者等を対象に同社と株式会社西興部グラスフィードファクトリーが企画しました。

当日は生産者のほか、普及センター、関係団体など約50名が参加し、作業機による耕起・播種・水はけ改善等の実演、施工前後の草地の状態や草地断面の展示が行われ、それぞれ講師による機械・技術に関する解説が行われました。暑い中でしたが、参加者は水

分を取りながら熱心に参加していました。穿孔暗きょ機「カットドレーン」による実演では、実際に圃場地下に空洞が形成されることを確認した参加者からは驚きの声が聞かれるなど、日頃から粗飼料生産に取り組む生産者にとっても、あらためて技術を学ぶ場となりました。

終了後、主催者であるU2DC(株)小島克也代表は「良質な粗飼料生産は酪農家の大事な仕事、簡易更新を有効に利用して草地を改善していきたい。今回は各所の協力を得てこのような会を実施できありがたい。近隣の酪農家・関係団体にもこの技術を普及していただきたい。」と今後の技術普及への期待を述べました。また参加した生産者からは「完全更新と併せて簡易更新行う必要を感じた。草地によって合わない土壌があるので技術サポートがあるとありがたい。地域全体で機械のレンタルが可能になるとより普及につながると思う」との感想が聞かれました。(T.H)



仙 台
支所発「スポーツ交流会」開催！
岩中酪青年女性会議

去る7月22日(土)に、岩中酪青年女性会議（齊藤健委員長）主催のスポーツ交流会が、岩手県盛岡市の岩手中央酪農協（小西善之代表理事組合長）特設会場にて4年ぶりに開催されました。

当日は大変天候にも恵まれて、約50名の会員が参集しました。開会式、ラジオ体操の後、岩中酪管内を「二戸」「北岩手」「八幡平」「玉山」「滝沢」「県南」の6つの地域に分けて、チーム対抗戦で競技は進められました。

最初は「トワイン結びリレー」。長短取り混ぜられた束から引き当てたトワインをリレーで結びながら一早くゴールを目指す競技です。予想以上に白熱した戦

いとなり、最終判定でどのチームが1番になったのか判断を迷うほどでした。

他にも岩手県産牛乳を使った「牛乳早飲みリレー」や、お子さんたちの「お菓子争奪かけっこ」も行われました。最後は「綱引き」。男女混合で対決し、日頃の酪農作業で培われた腕力を存分に発揮した熱戦となりました。

競技終了後の恒例の懇親会では、ビールや焼き肉が振舞われ、日頃の疲れが癒されているようでした。コロナ禍前は毎年行われていたこのスポーツ交流会は会員同士の交流と親睦を図る大切な行事になっており、来年度も無事開催を迎えられるよう祈るところです。（Y.S）



▲ 予想以上に盛り上がった「トワイン結びリレー」



▲ 腕っぷしを発揮! 「綱引き」



▲ やっぱり暑い日には…「牛乳早飲みリレー」

東京
支所発

栃木県酪農協会 「第1回 酪農経営ゼミナール」を開催！

7月12日(水)、栃木県酪農協会（臼井勉会長）主催の「第1回 酪農経営ゼミナール」が、栃木県県央家畜保健衛生所において開催され、関係者を含め約40名が受講されました。

最初に臼井会長から主催者挨拶があり、午前中は大戸孝男税理士事務所税理士の笠原彰朗氏を講師に「インボイス制度と確定申告における税制優遇制度について」の講義が行われました。内容は、本年10月1日より開始される適格請求書等保存方式（インボイス制度）の概要や、制度導入に伴う農業者の留意点、さらには事業者別に今後それぞれがとるべき対応や申告書の記載方法を、詳しく丁寧に説明していただきました。

午後には、前全酪連東京支所アドバイザーの齊藤達夫氏を講師に「酪農家がいまやるべきこと」の講義

が行われました。齊藤達夫氏の知識や経験を基に、教科書だけでは学べない牛の飼養管理や酪農家の心構えについて解説していただきました。その中で、“酪農家キーニィの牛飼い哲学”に記載されている「私たちはあなたの乳牛です」という事を忘れないでほしいとおっしゃっていました。すなわち乳牛の運命は、酪農家次第という意味です。酪農家がきちんと飼養管理を行うことで、乳牛はストレスが無く健康に育ち、それは結果的に美味しい牛乳を生産することに繋がっていくのだと再認識しました。

最後に、本日の経営面と技術面のゼミナールを通し、酪農経営の一助になることを期待するとともに、本州生乳生産量第一位を誇る栃木県酪農の発展に繋がればと願っています。（D.H）



◀ 全体写真



▲ 笠原先生



▲ 齊藤先生

名古屋
支所発

「本巢酪農女性部交流会」開催

7月27日(休)に岐阜市 ビーナスアンドマーズにおいて、本巢酪農女性部の交流会が開催されました。

交流会には山県市、岐阜市、養老町などをはじめとした岐阜地区・西濃地区の女性部会員7名が参加され、新型コロナウイルス流行後初めての交流会を楽しめました。今後の女性部の活動方針をはじめ、ご子息の酪農仕事の様子といった酪農談義など話題は尽き

ない様子でした。

交流会はお食事と並行して進められ、お料理に舌鼓を打ちながら、始終笑顔の交流会となりました。次回は9月1日に乳製品を使用した料理講習会と、美濃地域の女性部との交流会が行われる予定となっており、また集まる日を楽しみにされていました。(F.S)



原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

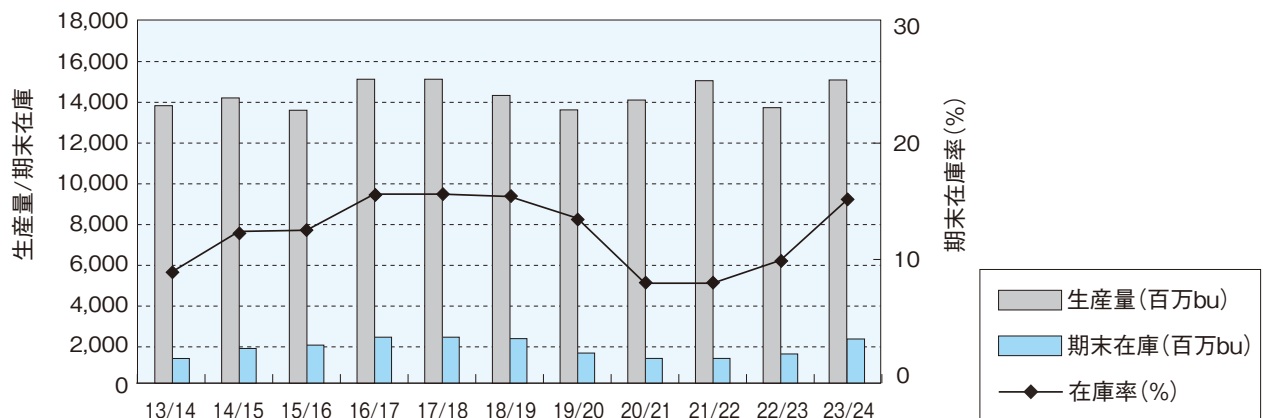
〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

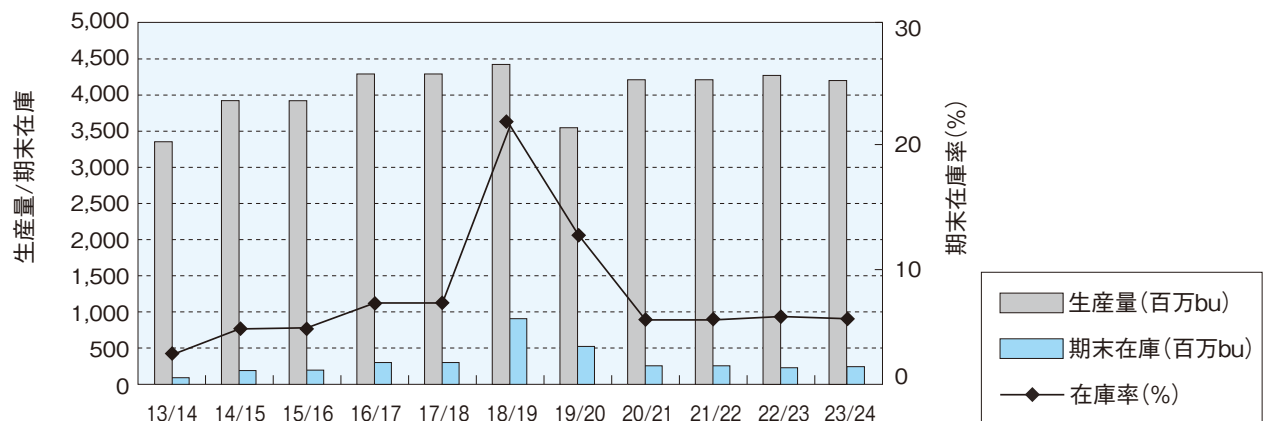


8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		22/23年産	23/24年産
	作付面積 (百万エーカー)	88.6	94.1
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	173.3	175.1
	生 産 量 (ブッシェル)	137億3,000万	151億1,100万
	需 要 量 (ブッシェル)	136億8,500万	143億9,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	14億5,700万	22億200万
	在 庫 率	10.65%	15.30%
トウモロコシ 相場動向	米中西部での高温乾燥に伴う作柄悪化懸念も、最近の降雨により作柄の改善傾向にあるとの見方からシカゴ定期は軟化傾向で推移している。今後もウクライナの穀物回廊の動向や天候に伴う作柄状況に大きく左右される相場展開が予想される。		
大豆粕相場動向	USDA需給報告が市場の見込みより低かったものの天候が改善されたことからシカゴ相場は軟調に推移している。国内搾油メーカーは菜種の方が採算が取れることから大豆から菜種搾油にシフトしており、国産価格は高止まりに推移している。		
糟糠類	【一般フスマ】 外食産業、インバウンド需要が回復したこともあり、お土産などのお菓子類は消費が増えているものの、主製品であるパンなどは売れ行き低迷が続き発生は少ない状況となっている。末粉に関しても夏場は水産用の餌がピークを迎えるため引き合いが強くなっている。		
	【グルテンフィード】 スターチメーカーは夏季需要で稼働は順調ではあるものの、中国ではスターチ工場の稼働率が悪いことから輸出に回る玉がなく現地価格が高騰している。故に国産の引き合いが増えており需給タイトな状況となっている。		
海上運賃	フレート市況は、サウジアラビアの原油減産により、原油価格が上昇を継続しているため底堅く推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



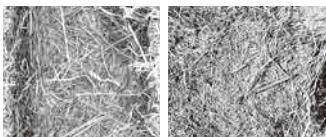
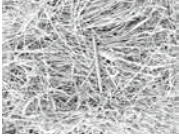
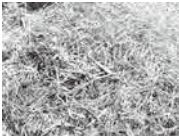
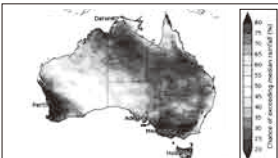
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和5年8月

北米コンテナ船情勢	米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は現地6月14日に暫定合意に至っておりますが、正式合意については秋頃と見込まれています。カナダ西海岸ではカナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉が行われていたが7月1日よりストライキに発展し、一時的にバンクーバー港で貨物の滞留や荷役遅延が発生しました。7月13日に一度、暫定合意となりましたが、カナダ西岸港湾労組が政府からの和解案を否決したことから再びストライキとなりました。その後、再度交渉が行われ7月30日に暫定合意となりました。現在は正常稼働となっていますが抗議活動の影響で港湾が混雑しスケジュールの遅延も発生しており早期の解消が望まれています。
ビートパルプ	【米国産】 23-24年産の播種は終了しています。春先の冷涼な気候により播種作業が遅れましたが、気温の上昇とともに生育は順調に進んでいます。7月前半は乾燥した気候となりましたが後半は適度な降雨もあり、今後天候が安定すればスケジュールの早い地域で8月中下旬頃から23年産の収穫作業が開始される見込みです。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは天候に恵まれたこともあり、例年より早く2番刈の収穫が終盤を迎え、早い圃場では3番刈の収穫が行われています。収穫された2番刈の品質は色目が良く上級品が多く発生しています。新穀の取引については22年産の歴史的な高値を受け慎重に買付を進めている輸出業者に対し、生産農家は少しでも高値で販売したいと考えているため依然として買付進捗も低調のままで産地相場を見極める動きが続いています。 コロンビアベースン ▶ 2番刈りアルファルファの圃場写真（7月下旬撮影） 
	【ユタ州】 ユタ州では1番刈の収穫が終了し、現在2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。1番刈は多くの圃場で降雨被害があり上級品の発生は限定的となっています。中国や韓国といった輸出向け需要も低調に推移しているため産地相場は軟化しています。
	【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了し、7月下旬から2番刈の収穫作業が開始されています。23年産の1番刈は例年よりも1週間遅い6月中旬から開始されました。作況については天候の回復を待って収穫した影響で、刈取り適期を逃し生育が進んだ圃場もあり、成分値の低下が懸念されましたが、例年同様、上級品が生産されています。同州クリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。6月中旬より収穫作業を開始しましたが、収穫作業中に降雨被害があり6～7割程度が雨あたり品となり良品の発生は限定的です。上級品不足の影響で近隣州から買付に入る動きもあるため、今後の動きには注意が必要です。  ▲ 23年産オレゴン産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影
	【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在5番刈が収穫中です。産地では連日40℃を超える気温が続いており、過乾燥気味なサマーヘイ中心の発生となっています。23年産は1番刈から3番刈は高成分の上級品が多く中東向けに買付が進みましたが、4番刈以降成分値が低下していることもあり需要は低調に推移しています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのアルファルファの作付面積は145,769エーカー（前年同期は130,758エーカー）と前年同期比111%と増加しています。同州北部のディクソン地区では現在3番刈の収穫作業が終盤に差し掛かっています。産地は酪農地帯から地理的に近いこともあり、1番刈は旺盛に売買されていましたが、2番刈以降国内需要が落ち着いてきたことから相場は軟化しています。
チモシー	【米国産】 産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは1番刈の収穫作業が終了しています。コロンビアベースン南部での早い圃場では7月下旬より2番刈の収穫作業が開始されています。23年産は春先の冷涼な気候で推移していたものの5月下旬の急激な気温の上昇や、収穫期の不安定な天気の影響で上級品の発生は限定的となり、中級品～低級品の発生が大半となっています。1番刈の生産量についても昨年と比較すると20-25%減少しています。23年産も前年と同様に豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作している圃場も多く、2番刈の生産量は減少すると見込まれています。 23年産 ▶ ワシントン産1番刈チモシー 7月下旬撮影 
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では乾燥した状況が続いたため、例年より遅い収穫進捗となっていました。7月下旬より収穫が開始されました。生育期に山火事の煙による日照不足の影響で23年産の収穫量は大幅に減少することが予想されています。同州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫作業は終了しています。収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となっています。市場については、産地相場を慎重に見極めているため輸出向けの動きは少ないものの、干ばつの影響や収穫量の減少でカナダ内酪農家からの需要も多く好条件で取引されており、今後の産地相場には注視が必要です。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。これまでに収穫されたスーダングラスは上級品及び中級品の発生が中心となりましたが、色抜け品の発生は生育期の湿度が低かったこともあり発生は少なくなっています。産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えており、例年よりも遅い買付進捗となっています。また、需要減退や産地価格も軟化していることから2番刈を行わない生産農家も多くなると予想されています。灌漑局の発表によると、7月1日時点での作付面積は22,456エーカー（前年同期は46,888エーカー）、前年同期比48%となっています。作付面積は先月に引き続き減少していますが、日本向けの需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はなく、今後の産地相場上昇も考えにくい状況です。 23年産 ▶ スーダングラス 7月中旬撮影 
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫が終了し、圃場によっては3番刈の収穫が開始されています。産地では連日40℃を超える高温が続き、高湿度の予報も出ていることから3番刈は茶葉の混入や茎質が固く、不安定な品質になることが懸念されています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,179エーカー（前年同期19,262エーカー）となっており、前年同期比115%と増加しています。
バミュダ	主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは現在バミュダヘイは3番刈の収穫が開始されています。1番刈と2番刈の品質は上級品の発生が中心となりましたが、3番刈の品質は直近の気温上昇が影響し中級品の発生が中心となっています。産地相場については米国内農家からの需要も減退しているため軟調に推移しています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、7月上旬よりペレニアルライグラスストローの収穫が開始されました。例年と比べ降雨が少なかったため、土壌中の水分が不足し生育が進まず生産量は減少すると予想されています。
オーツヘイ	【豪州産】 23年産の作付けは終了し生育期中盤に差し掛かっています。全豪的に平年を下回る降雨量となっており、特に西豪州では平年の30%～50%の降雨量と乾燥した気候が続いています。右図は豪州の気象庁による8月から10月の降水量予測ですが、平年以上を下回る降水量になることが予想されており生産量の減少が懸念されます。  出典：The Australian Bureau of Meteorology より
豪州コンテナ船情勢	コンテナ船の情勢については上級品の出荷が中心の西豪州で、出荷量に対し空コンテナが不足しているためフリーマントル港では混雑が続く遅延が発生しています。アジア地域の積替港の混雑は緩和されていますが、現状もスケジュールは不安定な状況が続いており、日本への入船が予定よりも遅れるケースも散見されます。

全酪連の代用乳製品

生まれた子牛は強化哺育®にお任せください!!

ホルスタイン雌子牛 強化哺育®用

和牛・F1子牛 強化哺育®代用乳



全酪連は2005年1月に搾乳後継雌牛のための「強化哺育®・育成体系」を発表、強化哺育®用代用乳『カーフトップEX』を供給してまいりました。以来、全国各地でご利用いただき、子牛の発育と健康面における大幅な改善、初産分娩の月齢短縮や体格向上、初産乳量増加などの好結果に絶大なるご支持を賜ってまいりました。全酪連・酪農技術研究所では、自家産の雌牛を対象に、哺育体系の違い（『標準体系』vs『強化哺育®』）を比較するための飼養試験を1998年より継続してまいりました。これまでの5年間のデータを哺育期・育成期・初産乳期について集積・比較した結果を要約すると、初産分娩月齢は22.3ヶ月でほぼ同一、初産分娩後体重は強化哺育®区が596.2kgで+23.7kg、初産乳期乳量は強化哺育®が9,682kgで標準より+822kgという結果でした。



強化哺育®の効果を和牛子牛やF1子牛に応用するために『カーフトップEXブラック』を開発、2007年夏より供給開始し、全国の肉用素牛の体格を大幅に改善して注目されております。肉用素牛においても、強化哺育®によって、過肥にならず、フレームサイズが大きく、飼料摂取に優れた育成管理が重要であり、全国で自動哺乳機による和牛・F1子牛強化哺育®事例が普及しつつあります。『カーフトップEXブラック』は、ホルスタインよりも生時体重の小さい和牛やF1子牛のエネルギー充足を満たすためにエネルギー濃度を上げ、更に粉末初乳を加えて便スコアの改善を考慮しています。

初乳粉末製品

GOODSTART
PREMIUM

初乳が足りない時、イザという時の備えに

○作業性は「3楽」

～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌たしい子牛の分娩。

溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368
根室駐在員事務所 01537(6)1877

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(226)6851
栃木事務所 028(689)2871

名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469
近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133

福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で93.0%、累計で96.4%、苫小牧管内月計で90.2%、累計で92.9%の実績となっております。 9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月中旬分娩が中心となります。資源状況は豊富であり相場は前月並みの価格で推移するものと思われます。腹別では、F1腹の出回りが多くなっている傾向があり、雌雄選別腹は減少傾向にあります。優良牛や高能力な牛が揃う地域ですので相場が落ち着いているこの時期に導入をお勧めいたします。
	初妊牛	43~53	→	
	経産牛	35~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20~25	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で95.5%、累計で95.3%、中標津管内月計で94.5%、累計で95.7%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月中旬分娩が中心となっております。猛暑での更新需要があるものと思われますが、暑い中での輸送を嫌うことも考えられ、相場は横這いで推移すると予想されます。管内の資源状況はF1腹が豊富となっており、和牛受精卵移植腹も増加傾向、雌雄選別腹が減少傾向にあります。育成牛、経産牛も初妊牛と合わせて横這いで推移するものと予想されます。
	初妊牛	40~48	→	
	経産牛	32~42	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で93.8%、累計で94.8%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月分娩中心となり冬分娩へシフトしていきませんが、管内の資源状況は豊富であるため相場は横這いで推移するものと思われます。腹別の価格差は無くなっておりませんが、雌雄選別腹が少ない状況となっています。和牛受精卵移植腹については、引き続き軟調相場で推移しており購買しやすい状況にあります。また、即戦力である経産牛については40~50万と人気があり初妊牛価格と比較すると割高感があります。育成牛も同様に横這いで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	18~28	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で94.7%、累計で95.9%、北見管内月計で94.1%、累計で94.6%の実績となっております。 9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月中旬の分娩となっております。秋~冬分娩が中心での出回りとなります。管内市場は弱含みで推移していましたが、暑さの影響で道内でも更新が必要な牧場もあるため、需要は高くなると考えられ、横這いで推移すると予想されます。資源状況につきましてはF1腹、雌雄選別腹共に豊富にある状態となっております。経産牛につきましても横這いで推移すると見込まれます。
	初妊牛	43~53	→	
	経産牛	28~38	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は94.4%、累計で95.4%の実績となっております。道内では2番草が終わり、デントコーン収穫のシーズンに入ります。9月の初妊牛動向といたしまして、大きな相場の動きは考えられず前月並みの価格で推移するものと見込まれます。低調な相場が続くことで酪農家は雌資源を販売にまわさず、自家保留することも選択肢の1つとして持ち始めるため、今後の出回り頭数の動向に注意が必要です。しかしながら現状は、資源は豊富であり、腹別に見てもF1腹、和牛受精卵移植腹が増加傾向にあります。今後の搾乳後継牛確保のためにも、今の時期に導入をすることをお勧め致します。猛暑の影響を引きずり更新する動きも出てくることが見込まれますので、導入予定がございましたらお早目にご注文宜しくお願いいたします。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	35~45	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「おいしいかい?」(岡山県川上拓郎氏 撮影)です。

令和5年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.696

●編集・発行人 岡田征雄

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 厳しい残暑がまだまだ続っていますが、体調には十分注意を払ってお過ごしてください。
- 8月から乳価も引き上げられました。今後は牛乳・乳製品の消費が落ち込まないように、酪農の理解醸成や牛乳・乳製品の消費拡大PR等、一層力を入れて活動して参りたいと思います。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



虹をわたる牛

吹田市西山田小学校 4年（九州） 成松芽衣子

今月の入賞作品は…

吹田市西山田小学校 4年（九州）の成松芽衣子さんの作品です。

おじいさんを乗せた牛さんが虹を渡っています。とてもメルヘンチックで優しい感じのする作品です。牛さんの体もカラフルな色を何色も使って幻想的に描かれています。私もお気に入りの一枚です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議